



有家中だより

令和6年 5月9日

南島原市立有家中学校

校長 本多 洋二

保護者の方へお願い

24日のPTA総会、部活動振興会総会にご参加いただきありがとうございました。70名以上の保護者の方々が参加くださいました。お忙しい中ありがとうございました。

さて、PTA総会では次のような話をしましたのでご紹介します。以下はその要旨です。

今年度、有家中学校は、保護者の皆さんにとって、「応援しがいのある学校づくり」をしていきたいと考えています。応援というと、サッカーでよく「サポーター」という言葉が使われますが、私は、学校にとって保護者の皆さんは、一番のサポーターだと思っています。「サポーター」と一体となったチームが強いように、保護者の皆さんと共に協力しながら有家中学校を作っていきたいと思っておりますので、お力添えのほど、よろしくお願いいたします。

令和6年度のスタートにあたり、**3点、お話をいたします。**

1点目は、「担任を信頼していただきたい」ということです。

始業式の日、子どもが帰ってきて、まず聞かれるのが「誰と一緒にだった？担任は誰だった？」ということだと思います。そのときの反応が2つに分かれます。「そう、よかったねえ〜」という反応か、「え〜」という反応です。

「よかったねえ〜」と言われた子どもは、プラスからスタートできますが、「え〜」と言われた子はマイナスからスタートすることになります。この差は、子どものより良い成長という面では、大変大きいものになります。

何が言いたいかというと、子どもの前では、担任批判や教師批判をされないようお願いしたいということです。担任批判や職員批判は、決して子どものためにはなりません。(右上へ)↗

より良い成長という面では、逆にマイナスになります。もし、不審な点や意見、不満等がある時は、まず、担任へお願いします。学級のごことは、担任と十分に話し合ってください。それでも解決しない場合は、いつでもかまいません。私、校長へ連絡ください。

2点目は、「子どもの手本となる大人を意識しましょう」ということです。以前、講演会があって、その講演の中で、子どもは大人をよく見ているという話がありました。あるお母さんが言われるそうです。「5歳になる娘が、冷蔵庫の一番下の野菜室の引出しを、手で開けて、足で閉めるんです。その姿を見たとき、愕然としました。私がしているのを見ているのですね〜」って。

よく「子どもは、親の言うとおりにほしくないが、するとおりにする」と言われます。

子どもにしてほしいことは、してみせること。これが一番効果大きいそうです。大人が、いい手本になる必要があるんだな〜とつくづく感じました。

今日のように忙しい中、PTA活動をされている姿は、子どもにとっては、お父さん、お母さんは、頑張っているんだなあと後ろ姿で示す無言の教育になっていると思っています。今後ともご協力、よろしくお願いいたします。

3点目は、「有中が特に力を入れていることです。」有家中学校では、あいさつ・返事・後始末の実践を徹底しようと取り組んでいます。心を込めた挨拶。気持ちのよい返事、後始末の習慣化に、特に力を入れています。ご家庭ではいかがでしょうか。「あいさつ・返事・後始末」はきちんとできているでしょうか。「心を込めたあいさつ、気持ちのよい返事、後始末の習慣化を、子どもたちに意識させたいと考えていますので、ご家庭でもご協力をお願いします。

学校スローガン

「見つけろ！広げろ！我が可能性を！」

学校スローガンをイメージしたポスターを美術科の山口教諭が作成しました。自分の可能性を見つけることを地図に示し、見つけようとする自分（鳥）と広げようとしている様子をイメージしたものです。



5月の主な行事

- 15日（水） 体育大会予行練習
- 17日（金） 会場設営
- 19日（日） 体育大会（雨天順延）
- 20日（月） 振替休日（19日実施できた場合）
- 21日（火） 教育相談（～30日まで）
- 22日（水） 歯科検診（3年）フッ化物洗口
- 27日（月） 28日（火） 3年実力テスト
- 29日（水） 歯科検診（2年）フッ化物洗口
- 31日（金） 生徒総会

心を磨く清掃活動



膝をついて黙々と床を磨く3年生。同時に心も磨いています。

＜朝のあいさつ運動に取り組む生徒達＞



ブレークコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

「限界をつくるな！」

驚異的なジャンプ力で知られるノミ。成虫は体長1mmから4mmほどの小さな昆虫で羽はないものの、後ろ足は飛び跳ねるためによく適応している。ノミは最大で垂直方向に20cm（体長4mmとすると体長の50倍）水平方向に41cm（体長の100倍）跳ぶことができる。もし、身長160cmの人間が跳ぶことができるとすると高飛びは80m、幅跳びだと160m飛ぶことになる。この20cmも跳ぶことができるノミを高さ10cmの箱の中に入れてふたをする。ノミは箱の中で跳び続ける。しばらく放置して、そのノミを再び箱から出してみると、10cmしか跳べなくなっている。20cm跳べたノミが10cmしか跳べなくなった理由は、「箱の中」という環境で「10cm」という壁をつくられたために、「10cm」が自分に跳べる高さの限界だと思ってしまったからである。自分で勝手に限界をつくってしまったために本来持っている能力を発揮できなかったのである。これは、人間にも同じ事が起きうるのではないだろうか。

「俺（私）には、無理だ。こんなことできるわけがない。」というように、今までの経験や今置かれている環境で自分自身に限界をつくっていませんか。

皆さんには、無限の可能性が 있습니다。自分を信じることで、このことが自信です。この1年間、自分の可能性を広げてください。